

塑性加工の  
総合専門誌  
PRESS  
WORKING

# プレス技術

1

Jan.  
2021  
Vol.59  
No.1

- 特集** 品質と効率を両立する! プレス加工の検査・測定と自動化技術
- 巻頭インタビュー** 鈴木工業(株) 代表取締役 鈴木翔太氏
- 好評連載** プレス作業を改善する電気/空圧制御の基礎知識  
仕事に活かすアイデア発想レシピ

## プレス関連自動化・省力化装置

# MYTEL



# Auto Reel

**SATSUKI**

サツキ機材株式会社  
SATSUKI KIZAI CO., LTD.

**Futaba**  
Group

## 第37回竹内記念・ニュー型研サロン 初のオンライン開催参加メンバーのコロナ禍下 でのそれぞれの戦略と展望を公開

竹内型材研究所

(株)竹内型材研究所（神奈川県伊勢原市：内山真司 社長：0463-93-7771）は11月13日、「第37回ニュー型研サロン」を開催した。同サロンは竹内型材研究所が主催していた型材研究会から続く親睦団体の勉強会。今回は初のオンライン会議形式での開催に挑戦。ウェブ会議ツールZOOMを使用し、約1時間半の勉強会となった。

勉強会全体のテーマは「コロナ禍における型研メンバーの奮闘記」。メンバー企業の新工場紹介やコロナ禍を見据えたビジネス展開、また、リモート化などのものづくりにおける環境変化への対応提案などが紹介された。

まずは「(株)西野精機製作所の新工場紹介と社長インタビュー～盛夏の事前VTRでのビジュアル工場見学～」で登場したのは同社の西野信弘代表取締役。5月20日にひたちなか市新光町552-84に本社を移転。新工場を設立した。西野社長は、今回の新工場の特徴として同社が試作加工メーカーであることに触れ、「営業と現場、検査の近さを意識し、情報とモノの流れがスムーズな工場の構築を目指した」とした。また、今後のコロナ禍の中での業務を意識し、専用設備やスペースを用意しIT・DX化を推進している。

次に(株)放電精密加工研究所の村田力取締役が

「コロナ禍を見据えた放電精密加工研究所の戦略」と題して講演。同社の大和工場（神奈川県大和市上和田1654-4の一部）は今年11月1日より操業を開始した。今後マルチマテリアル時代に向けて同社のサーボプレス「ZENFormer」5機種をシリーズ化しており、新工場ではそれらを活用した生産対応を強化する。また同社ではZENFormerのシェアリング事業も推進している。同プレスを使用してみたい、実証に活用したいなどのニーズに合わせて工場内に3台用意している。村田取締役は「アフターコロナの時代にはすぐに機械を購入する環境にはなくなるだろう。機械メーカーとしてそのニーズに応えたい」とした。

また最後に「ものづくりの環境変化への対応」と題してアプト技研の大島清次郎代表が講演した。大島代表は、コロナ禍の状況下での遠隔（バーチャル化）での会議や商談打ち合わせへの対応強化が急務であることを説明。そのうえで、たとえばCADデータを画面に共有し、ポインターを操作し、形状などの変更に関する打ち合わせを誤解なくスムーズに行える様子を紹介。オンラインならではのメリットや、現在用意すべきシステムや設備などを具体的に解説した。

